

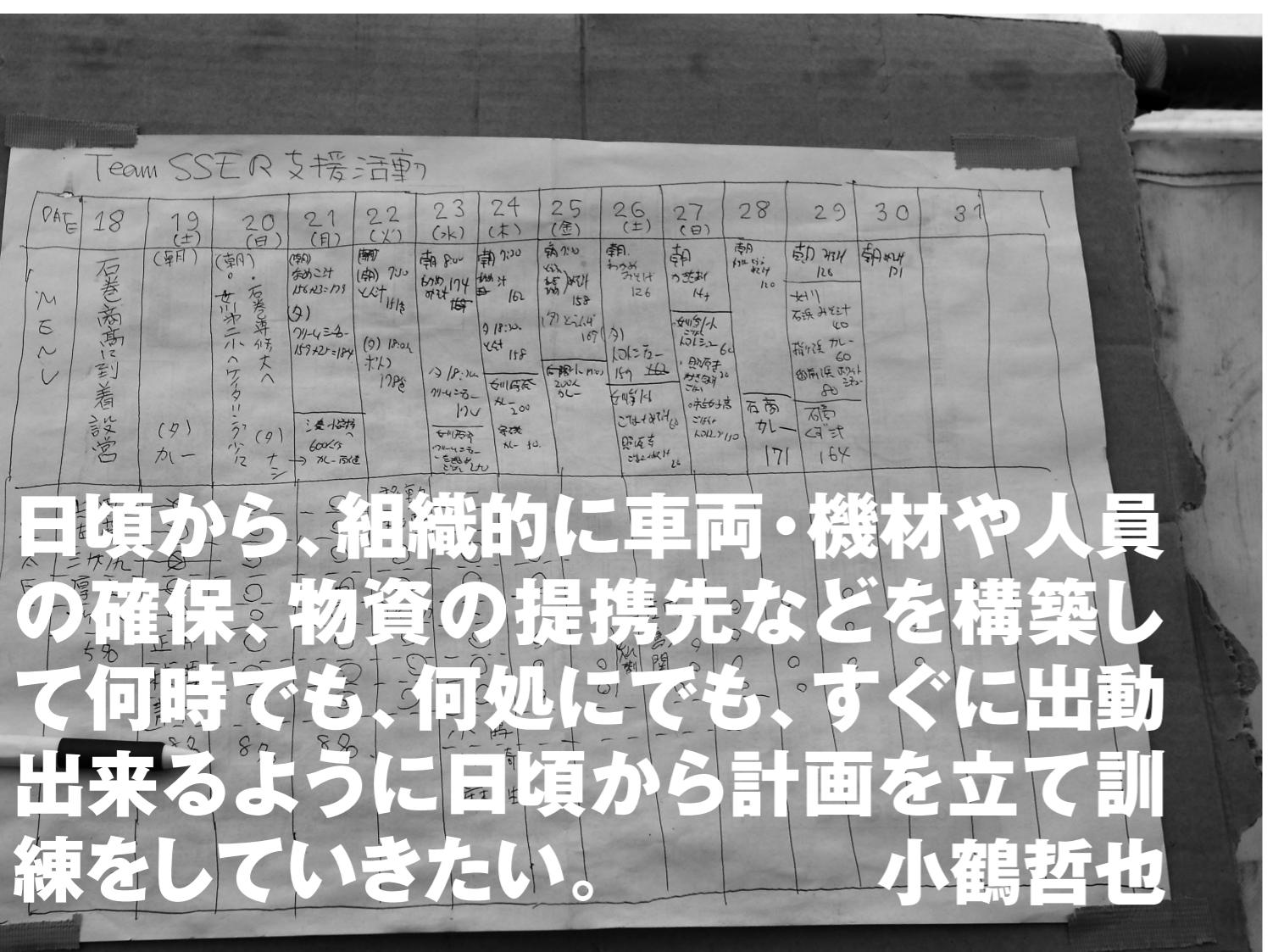


小鶴 哲也(52)福岡県 会社役員
「忘れた頃に来る、大震災。
“備えよ常に”」

東日本大震災から七ヶ月が経ちました。あの光景は、一生忘れることは出来ないでしょう。まだまだ、復興は、始まったばかりです。NPO SSER でさえ、出動までの時間が大幅にかかりました。確かに、受け入れ先の混乱などありましたが、最大の懸念は、福島第一原発でした。初動出動は、自衛隊・消防・警察ですが、我々で出来ることも多々あります。日頃から、組織的に車両・機材や人員の確保、物資の提携先などを構築して何時でも、何処にでも、すぐに出動出来るように日頃から計画を立て訓練をしていきたいものです。忘れた頃に来る、大震災。“備えよ常に”



赤松 章(56)愛媛県 カメラマン
「ただ母は“海から山が来た”と。」
僕が訪れた時期の女川町は人の営みが途絶えカモメの鳴き声と波の音しか聞こえず、とても静かな土地でした。少しの間ご一緒にさせて頂いた女川町の女性職員の方が、3月11日『波にのまれ握っていたおばあちゃんの手が外れてしまった、その手の感覚が今でも残っている』と何度も自分で言い聞かせるように話されていたのが今でも思い出されます。その話を聞いた車の中で古い記憶が呼び起きました。僕が子供のころ母から聞いた津波の話です。母は宇和海の島の生まれなので子供のころ南海地震の津波に襲われたはずですが、被害の詳細は話しませんでしたが、ただ母は『海から山が来た』と。早朝で暗い中襲ってきた津波は、幼かつた母には山に見えたのかもしれません。このリアルな二人の言葉は時期が来れば子供に話そうと思っています。写真も少し撮りましたが人の想像をはるかに超えた現実で、写真や映像の力の限界をはるかに超え、マスマディアは『語り部』にはなれない感じあから半年が過ぎましたが、いまだに最低限の整理しか出来ていないし、この先も多分出来ないと思います。



日頃から、組織的に車両・機材や人員の確保、物資の提携先などを構築して何時でも、何処にでも、すぐに出動出来るように日頃から計画を立て訓練をしていきたい。
小鶴哲也

東日本大震災緊急支援活動／詳細報告

3/12 出動準備

大震災発生翌朝、出動を決定。緊急車両登録準備、物資の調達参加人員の決定などを急ぐ。

3/15 出動準備完了

混乱を避けるために派遣先の決定と行動計画の策定。

3/17 第1陣出動

緊急支援車両HINO レンジャーFT4X4、トヨタL/Cにて6名の先遣隊出動。ガソリン、軽油、灯油、LPガス、大型テント4、厨房機器、食糧食材など約4トンの機材を輸送。

3/18 宮城県仙台市到着

宮城県庁を訪問、石巻市災害対策本部への展開依頼を受け石巻市災害対策本部。宮城県石巻商業高校にSSER緊急支援本部を設営。追加メンバーの派遣要請。食材などの追加搬入要請。

3/19 約500食提供

石巻商業高校にて朝食より炊き出し開始。石巻商業高校では配給のパン、おにぎりしか食べられておらず「温かい物は初めて」とのこと。石巻商業高校に避難されている方は、女川町の島(出島)の方が多い。以後、朝夕は石巻商業高校避難所へのケータリングを継続実施。

3/20 約500食提供 女川町の状況を調査。

3/21 約1300食提供

(福)女川町社会福祉協議会と共同で、女川町沿岸部の集落を調査。沿岸部はコミュニティの結束が強く自活していく活気がある。女川原発内に避難所が開設され約250名が避難しているが、発電所内は火が一切使えず温かい物が食べられないため、3/23にケータリングを実施することとした。(福)石巻市社会福祉協議会より今晩の食事が全く無い石巻市内の避難所(湊小学校)に食事提供の依頼があり、800人分の食事をケータリング。

3/22 約500食提供

石巻市内を調査。石巻市災害支援連絡会議に参加。以後、毎日出席し、他団体との炊き出しの調整を実施。

3/23 約750食提供 女川原発内避難所に昼食をケータリング。

3/24 約750食提供

昨日に続き、女川原発内避難所に昼食をケータリング。石巻商業高校で行われた女川第四小学校卒業式にNPO SSERが招待され2名が参列。株式会社ナカタアートより支援物資の水素還元水が届き、各避難所に配布開始。

3/25 約600食提供

(福)石巻市社会福祉協議会を通じ、自衛隊の支援物資集積地より物資引き取りが可能となる。(福)石巻市社会福祉協議会の要請により石巻市内の避難所4ヶ所を調査。過去に全く炊き出しが無く、温かい物が食べられていない向陽小学校(200名)に夕食をケータリング。

3/26 約400食提供

女川町の女川第一小学校、照源寺へ夕食をケータリング。寄磯小学校、前網地区へ物資輸送。宮城水産高校の状況調査。

3/27 約400食提供 女川地区3ヶ所へ夕食をケータリング。

3/28 約340食提供

石巻市内避難所3か所を調査。物資が不足していたため物資搬送。

3/29 約400食提供

女川町石浜地区、御前浜地区、指ヶ浜地区に夕食をケータリング。同時に物資配布。

3/30 約500食提供

石巻市中里地区の街角にて炊き出し。同地区は通電しているが、水道、ガスが復旧していない。1階部分が浸水して家電製品が壊れてしまつたため、温かい食事を食べていない人が多い。

3/31 約500食提供

女川町高白浜の海泉閣に夕食をケータリング。同時に日用品などを配布。

4/1 約420食提供

石巻市向陽小学校に夕食をケータリング(2回目)。向陽小学校へは我々以外の炊き出しが行われていないため、週一回ペースでケータリングを行ふ事にした。

4/2 約450食提供

女川町勤労青少年センター及び周辺住民へ夕食をケータリング。
「石巻災害支援調整会議」が「石巻災害復興支援会議」に名称変更。

4/3 約480食提供

女川町、東北電力福島第一原発避難者へ夕食をケータリング。電気、水道は復旧しておらず、震災後、初めて暖かい物を食べられた方も多かった。物資の配給を同時に実施。石巻商業高校では、自主運営を考慮し、避難者の方にも手伝って頂くように順次移行。

4/4 約500食提供

女川町浦宿二区集会所にてケータリング。同時に物資配布。

4/5 約450食提供

女川原発避難所にて昼食をケータリング。非常に好評で再度要望された。

4/6 約350食提供

女川町さくら集会所にて配給に合わせケータリング。被害が無い地区的為、親戚を頼って被災地域からの避難所外避難者が多い。女川町老人福祉避難所にてケータリング。ここも、今まで一度も温かい食事を食べられていなかった。避難所から要望のある女性用下着をニーズに合わせ物資集積地から選び出し(福)女川町社会福祉協議会に配給。石巻の青果市場再開に合わせ、少しでも地元経済へ貢献すべく中卸業者より野菜購入を検討。但し、買いすぎにより近隣の方の迷惑にならないよう注意。(支援物資が減り物資集積所の野菜類が減少してきた事もある。)ライフラインが復旧している地区では配給が停止しつつある。被害が少ないこれらの地域には居住人数も多い。このため、物資不足から炊き出しの需要が高まっている。

4/7 約350食提供

女川町西二区にて配給に合わせケータリング。西二区は壊滅。西二区は無事だが水道、電気が復旧せず、今まで一度も温かい食事を食べられていなかった。統いて女川町老人福祉避難所へケータリング。我々の撤収後、女川地区の炊き出しをどのように引き継ぐか、石巻災害復興支援会議の炊き出し分科会にて議題にあがり、調整を行うこととなった。余震発生。★23時32分頃、最大余震発生。石巻市で震度5弱。津波警報が発令されたため、我々も校舎へ避難。自宅より学校に避難してくる方にも数名おられた。道路は山手に避難する車が列をなしていた。一帯は停電し、ヘリコプターが飛び回り、救急車が走り回る騒然とした状態となった。一時間程で津波警報は解除され、翌朝9時頃には石巻商業高校周辺の停電は復旧。強い揺れが震災当日の記憶を呼び戻し、被災者の方々の心理的ストレスは相当なものを感じた。電気、水道、ガスなど復旧してきていたライフラインが破壊された事も大きな心理的ダメージとなった。

4/8 約270食提供

石巻市向陽小学校にてケータリング。避難所の先生方に手助けを頂いた。我々以外は炊き出しに行ってない為、他団体に継続して行ってもらうよう調整を依頼。石巻商業高校では、自立支援の為、避難所の方々と共同で調理を実施。余震の影響でボランティアセンターでは、本日の活動は基本中止。個人ボランティアの受付や単発の炊き出しについても中止。我々のように継続して活動する団体が避難所で配食する分には問題ない事を支援会議と確認し活動した。

4/9 約310食提供

女川原発内避難所にケータリング。行く度に笑顔が増えている。

4/10 約300食提供

女川原発内避難所にケータリング。女川町清水三区にて物品配布とケータリング。清水三区は海岸からかなり奥のエリアで、被災時に避難していない方が多かった。瓦礫撤去が手付かずの状態で、水産業の冷凍倉庫から溢れ出した魚が腐敗しガスや熱が出ており、一帯は異臭に包まれていた。電気、水道は不通。このエリアも我々が初めての炊き出しの事。支援会議でNPO SSERの支援活動終了が発表され、これまでの活動に対し謝辞を受けた。

4/11 撤収。

女川町の炊き出しの引継ぎ調整のため、他NPOと石巻災害復興支援会議のメンバーと(福)女川町社会福祉協議会にて打ち合わせ。無事引き継ぐことができた。

